



工藤篤子メールマガジン 100号 2007.02.09

●33年目の告白 ●アウシュヴィッツ博物館案内

お変わりありませんか？

ハンブルクでは、最近、ちょっとした変化がありました。先週から、多くのスーパーマーケットが、月曜から土曜まで、夜の10時まで営業するようになったのです。数年前までは、6時きっかりにすべての店が閉まりました。土曜は12時までか、遅くても午後一時まででした。けれども、EUに加盟してからというもの、閉店時間は徐々に遅くなり、最近は平日は8時まで、土曜は4時まで営業する大手スーパーやデパートが多くなりました。

この閉店時間の変化は、労働者の残業時間が長くなってきたことの反映です。私がドイツへ移った1987年には、残業など考えられない時代でした。多くの会社員、公務員は、5時すぎには家に帰っていたものです。

しかし景気が低迷し、失業率が高くなってきた今、従業員たちは、もし職場を追われると、簡単には他の就職先を見つけることが出来ません。それでやむなく、会社の要求通り残業をするようになりました。従って、スーパーマーケットも、売り上げを得るために、買い物客の時間帯に合わせるようになってきたのです。残業のない国、家庭第一の国民、静かな夜、静かな週末、というドイツのイメージも、時代とともに随分変わってきたようです。

(写真:ハンブルク駅前)

●33年目の告白

私が神の臨在に触れ、聖書を読み始めるようになったのは、18歳の時、万引きが見つかったのがきっかけでした。交番に連れてゆかれた時、母も呼ばれました。当時父は、青少年補導に関してはエキスパートの警部で、テレビや新聞などによく出ていたのですが、顎の骨が溶け出すという骨肉腫にかかり、何ヶ月も入院している時でした。

交番のおまわりさんは、「このことはお父さんには言わないでおいてあげるから、もう決して盗みをしてはいけませんよ。」と言って、母と私を帰してくれました。母は、このことは決して父には言わないようにと強く私を戒めました。父が生死を問う大変な状態の時でしたし、もしこのことが父に分かったら、「お父さんは、お前の教育が悪かったからだ、と私と責めるに違いないから」、というのがその理由でした。

3年前、母が亡くなりました。その時から何度も父に話そうと思ったのですが、母のことを悪く思われるのもいやだし、謝罪するにも勇気が足りません。けれども、今年出版を予定している本に、そのことも書かせていただくことにした今、一日も早く父に謝罪しなければならないと思いました。



2週間前、勇気をふるって父に電話をし、一切を打ち明けました。皆さん、父はどんな反応を示したと思いますか？何と、父は、そのことをすでに知っていたのです！万引きをしてつかまった翌日、入院中の父の看護に行った母の様子がおかしいので、問いただしたのだそうです。その時、父は母にこう言ったそうです。「俺の入院と、お前の俺への看護で、親の愛情不足になった結果だ。本人も心から悔いているだろうから、今後一切この事で篤子を責めないように」。

私は、33年目にしてやっと謝罪できた、という喜びもさることながら、親の愛の深さに感動しました。神の愛のひとつの型を見させてもらったような気がしました。

(写真:アッペンツェラーラント、松林幸二郎さん撮影)

●アウシュヴィッツ博物館案内

4月のアウシュヴィッツ訪問に備えて、アウシュヴィッツ収容所で通訳をなさっている中谷剛さんが書かれた「アウシュヴィッツ博物館案内」という本を購入しました。中谷さんは、1991年にポーランドに移住し、1997年にアウシュヴィッツ博物館公式通訳の資格を取得され、現在、同博物館の唯一の外国人公式ガイドとして働いておられます。

私もかつて、メルマガで、何度かホロコーストに関する記事を書かせていただきましたが、中谷さんの本は、私が少しずつ得てきた知識と思いを、さらに詳しく、さらに深く、かつとても分かり易く総括してくれたような内容でした。

戦後40年にあたって、当時のドイツの大統領であったヴァイツゼッカー氏が次のように言いました。「過去に目を閉ざす者は、結局のところ現在にも盲目となります。」

十字架で血まみれになったイエス様の無残な姿をしかと見上げることができなければ、自分の罪の現実と、神の愛の偉大さを知ることはできないと悟って以来、人々の救いを祈る者として、私も、歴史の現実を直視する大切さを覚えるようになりました。特に、「神の民(ユダヤ民族)」にふりかかったことに関しては、なおさらでした。私たち異邦人は、私たちの長子である「神の民」に与えられた契約の恵みにあずかる者とされたのに、何世紀にも渡って、教会がユダヤ人を迫害してきたからです。

旅行に参加される方、ユダヤ人の救いのために祈っていらっしゃる方、ホロコーストに関してお知りになりたい方、そして一般の方々にも、是非購読をお勧めしたい一冊です。

「アウシュヴィッツ博物館案内」中谷剛著 凱風社 ISBN4-7736-2907-X 2000円＋税

「アウシュヴィッツとバツハとルターのふるさとを訪ねる旅」(4月11日～21日)の申込み締め切りは今月末日です。どうぞお早めにお申し込みください。旅行詳細は、99号の添付ファイルをご覧ください。事務局の方へお問い合わせください。

それでは、また2週間後にメルマガをお送りさせていただきますね。
主の御愛と祝福に溢れた日々を過ごされますように！

工藤篤子